

Kumamoto Mental Health Hospital "REFLE"

りふれ

2025
Winter

新春号

Vol.

81



医療法人 再生会

くまもと心療病院

♥ 地域に開かれた病院を目指して…

理念

くまもと心療病院は、精神障害者と共に暮らす、より良き地域社会の実現に向けて、地域における精神保健・医療・福祉に奉仕します。

基本方針

- ① 患者様やご家族に満足していただくために、医療サービスの質の向上に取り組みます。
- ② 全職種が一体となり、チーム医療を実践します。
- ③ 患者様の人権を尊重し、人に優しい安全な医療を提供します。
- ④ 患者様の地域生活を支援します。

巻頭言 2025年 新春 医療法人再生会 くまもと心療病院 理事長・院長 荒木 邦生

2024年は重くて辛い年だった気がする。世界においては長引くウクライナやパレスチナでの戦争。アメリカの大統領選挙でのトランプ氏の勝利。日本においては元旦に起こった能登半島の地震、長い猛暑と降雨災害。病院においては相変わらず感染症との戦い。病床利用率低下や人手不足による難しい病院経営の問題などがあった。個人的には夏ごろから体調と気分が整わず、だるくて疲れやすい日々を過ごしていた。

そうこうしているうちに年が明けたが、2025年はいったいどのような年になるのだろうか。世界や日本のことはさておき、当院や個人のことにについては、私の努力や工夫により好転させる可能性があるので、頑張りたい。まず病院外の業務を減らし、今まで出張や会議などに取られていた時間を取り戻す。個人的な時間を増やし体力と気力をすこし充実させる。年齢からも、私が病院に何らかの貢献ができる時間は限られてきたので、もうしばらく可能な範囲内で頑張る、地域のためにもうしばらく貢献できたら良いなと思っている。

ところで近年の人手不足は非常に深刻である。特に我々のような医療分野においては、何処も苦勞をしていると聞いているが、この状況はしばらく変わらないと思われる。看護師や看護助手、調理師は人員が不足しているが募集しても応募がない。医師も全体数は足りていると国は考えているが、都市部への偏在が顕著で、クリニックに人材が奪われている。特に人口減少傾向が強い地域では、患者不足も職員不足も後継者不足も大変深刻で、今後はベッド削減や閉院、M&Aなどで併合が進むであろう。そのような中で当院はいずれの道を歩むべきだろうか。

新年早々また重い話をしてしまったが、ネガティブな性格なのでついそうになってしまう。

年4回のこの「りふれ」や、年1回の「あゆみ」の巻頭言でも明るい話を書いた記憶がない。今年はその辺から変えたいが、どうすればよいのか、これは難問である。とにかく病院で笑顔の時間を昨年より少しでも長く作れるよう努めたい。



りふれ 2025年 新春号の表紙 …………… 仲良しゆきんこ

数年前、珍しく雪が降って積もった朝に、娘がいつの間にか作った雪だるまです。どうして3段の雪だるまなのか不思議でしたが、アメリカ好きな娘曰く、欧米の雪だるまは3段（頭、胴体、足）が一般的だそうです。写真を撮った私は初めて知った雪だるまの世界でした（笑）。写真を撮ってからしばらくして、仲良く溶けてしまいました。

（撮影者：デイケアソシエ 桜間 美紀）



第17回

シリキ・ウトウンドウ

時は遡り、昨年の4月下旬、私の人生で初めての経験をするようになりました。高齢になるまで、興味のかけらも無かった世界に、足を踏み入れることとなりました。それが東京ディズニーリゾートでした。娘と妻が言うには、「騙されたと思って、死ぬまでには絶対体験していた方が良い」と強めに勧められ、騙されたと思って行くことにしました。

ミッキーマウスに会うのを目的に入園する人もいます。キャラクターの中の人、休憩時間に着ぐるみを脱ぎ、「疲れる～」と言っていることを、想像しないのかなと思議に思っていました。ミッキーと握手をすると、人間の手の骨を感じたのは事実でした。

ただ、ディズニーの園内で驚いたのは、物語の忠実な世界観作り、ワクワクするアトラクション、そして、計算し尽くされた豪華なパレードやショー。正直言って、莫大な資金が投入されているであろうことに驚嘆したのです。この1回目のトライは3日間のツアーでした。園内は広く、ひたすら歩き、アトラクションを巡り、大変に楽しい時間を過ごして帰りました。それから、1年が経過して、ディズニーに新しいエリアが出来るニュースが飛び込んで来ました。「ファンタジースプリングス」です。これは株式会社オリエンタルランドが巨額の資金を投資して、ディズニーシーに作り上げた「アナと雪の女王」「塔の上のラプンツェル」「ピーターパン」がテーマになっているエリアです。このニュースを聞いて、もう1回挑戦してみるようになりました。今年の10月に行って来ました。やっぱり、凄かった。シー、シー、ランドの3日間でした。「ファンタジースプリングス」のアトラクションは全て満喫し、シー内の「ソアリン」「インディ・ジョーンズ」「タワー・オブ・テラー」水上ショーの「ビリーブ！～シー・オブ・ドリームス～」。ランドでは「美女と野獣」「ス



プラッシュ・マウンテン」「ビックサンダー・マウンテン」昼のパレードの「ハーモニー・イン・カラー」そして夜の「エレクトリカルパレード」などがお薦めです。兎に角、歩きました。まるで「八甲田山」でした。若い方はわからないかな？ 1日20,000歩です。高齢者には、ハードな体験でした。現実の世界にいと経験することのできない“夢の世界”に、死ぬ前に行くことができ良かったと思います。冥土の土産かな。また、体力が許すなら、行ってみたいですね。ところで、題名の「シリキ・ウトウンドウ」とは「タワー・オブ・テラー」のアトラクションに出てくる呪いの偶像です。ディズニー旅行の記念にこのグッズをお土産に買ってお気に入りになりました。可愛くは無く、目が光るちょっと怖いグッズです。本当は可愛いぬいぐるみの方が良かったかなと思う、今日この頃です。

デジタル化が進んでいて、紙チケットに触れることなく、全てをスマホのアプリで操作するシステムになっていて、高齢者には難しいですね。それともう一つ、ディズニーで感動したことがあります。それは、キャストの接遇が徹底されていて、いつも笑顔で優しい接客で、快適でした。プロ意識の徹底です。我々、医療機関も参考にすることが多々あると思いながら、夢の国の旅に終わりがやってきました。

Profile

薬剤師 菊地 健一

Kenichi Kikuchi

経歴

1991年5月21日 くまもと心療病院 入職
1992年4月より 薬剤科 科長就任





くまもと心療病院 クリスマス会



今年も各病棟やデイケアにてクリスマス会を開催しています。東3階病棟ではクリスマスソングの歌唱、職員のバイオリン・ピアノ演奏、ピンゴ大会、シャンメリーや綿菓子の提供をおこない、たくさんの笑顔が見られました。残念ながら感染症の影響で会を中止した病棟もありましたが、来年は全病棟で開催できることを願っています。



デイケアソシエのクリスマス会は体育館で盛大に開催し、カラオケ、じゃんけん大会、抽選会、昼食はお寿司やクリスマスケーキなどのご馳走に皆さん喜ばれていました。

重度認知症デイケアぎんなんでは、利用者さんと飾り付けを楽しんだり、トナカイやサンタの衣装をしてクリスマスを楽しんでいます。



さまざまな食事形態のおせち料理

明けましておめでとうございます。元旦と二日に栄養科では、患者様お一人お一人の食べる能力・機能に合わせて、さまざまな食事形態のおせち料理をご提供しています。

ご入院中の患者様がおせち料理を通して、お正月を感じられますよう、今年1年を健康に過ごされますようお願いを込め、丁寧に心をこめて調理いたしました。



常食

ちらし寿司
鯛と生マグロのお刺身



ソフト食

再形成できるからこそ
お花を添えて華やかに



ミキサー食

色味と味を考慮し、
彩りを残す工夫を



きざみ食

たたきマグロの山かけ
お正月の甘味のきんとん



やわらか食

ちらし寿司の具材と酢飯は柔らかく
お醤油漬け生マグロの山かけ





家族会から家族教室へ

昭和42年2月から開催していた『病院家族会』は、令和4年度で惜しまれながら解散しました。本院の歴史書である文芸誌『きぼう誌』に、初代院長(荒木邦治)の家族会への思いが詰まった原稿がありましたので、今回一部を紹介します。

「家族会について」 ～きぼう誌第43号より～

本院第一回家族会が今月開かれました。熊本県だけで約四十の此の種の病院がありますが、家族会をやっているところが三つあります。熊本県では家族会反対の空気が強いです。私は多少のマイナス面があることは充分承知した上でプラス面を生かす如く実行することに致しました。何事も永続すること肝腎です。燃えて消えるより、くすぶって続いた方がどれだけかましであります。第一回は予想外に多く約90名の御家族が集まりました。一重に御家族の精神衛生に対する熱意と、患者さんへの心からの愛情の現れであると、心から喜んでます。



家族会だより 第1号 昭和47年8月1日発行

一、此の病気は病院だけでは解決されないことが多いのです。病院では直ぐよくなるけれども、社会に出れば又間もなく再発することが非常に多いのです。やはり病院と家族と社会と無論本人も一つになって努力して初めて成功するのです。御家族に此の種の病気の性質を充分理解してもらうのが目的の第一です。

二、此の病院の実体を知って貰うことも大切です。どんな風に治療されてゐるのか、どんなものを食べてゐるのか、どんな作業・レクレーション療法をしてゐるのか、その中で皆さん一人一人がどう協調してゐるのかを見てもらうことは色々な意味から必要なのです。

三、此の病気は、隠しておくものでなく、早急に治療すべきものなのです。自分一人がこんな辛い悩みを持ってゐると思ひ込んでゐる御家族は、かなり多いのです。それで一堂に会して話し合ひ、『此の悩みを持つ人が多いのだ！お互ひなぐさめ合えるのだ！』という意識をもってもらうことは、精神衛生の発展に必須のことです。

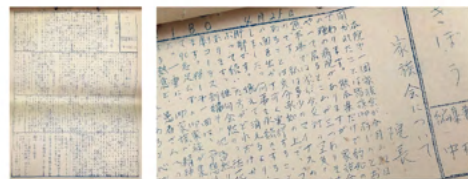
四、もっと快適に費用を安くして、充分治療が出来る様に努力する為には、政府並びに県がもっと精神衛生行政に本腰の力を入れねばなりません。その為には、御家族の悩みから来るエネルギーを政府の上に反映させることが必要であります。

(原稿の一部は省略しております)

毎年、病院の運動会や文化祭は、家族会と一緒に開催し、御家族と一緒に競技や演芸会を実施してきました。今後は病院主催の『くまもと心療病院 家族教室』と名称が変わりますが、年に数回実施し、御家族の研修や懇親会を設けていければと考えております。



きぼう誌作成風景 昭和57年作成当時の様子



きぼう誌 第43号「家族会について」
当時の荒木邦治院長の記事

シリーズ
医療の資格⑦

診療情報管理士

Health Information Manager

「診療情報管理士」とは、医療機関における診療記録および診療情報を適切に管理し、そこに含まれる情報を活用することにより、医療の安全管理、質の向上および病院の経営管理に寄与する専門的な職業とされています。当院にも「診療情報管理士」の資格をもった職員がいます。副院長直属の部署である情報管理室の一員として、診療情報管理に関する様々な業務を行っています。

診療情報管理士になるためには、日本病院会通信教育での基礎課程と専門課程の計2年間の通信教育を履修、または日本病院会認定の大学や専門学校(3年制以上)で統一されたカリキュラムでの養成の後、資格試験に合格すると四病院団体協議会と医療研修推進財団で「診療情報管理士」資格が認定されます。2024年現在、47,000人超の診療情報管理士が認定され、全国の医療機関等で活躍しています。

診療情報管理士の具体的な業務内容は、退院後の診療録の回収、点検、製本、情報の登録と提供、統計の作成等です。特に診療情報の質的 point 点検と量的 point 点検に力をいれており、医療の質の向上と医療の安全管理に寄与すべく、日々奮闘しています。

診療報酬上における診療録管理体制加算や病院機能評価への関与が求められており、当院では来年度からのデータ提出加算に関わることになり、更なる活躍が求められています。

(情報管理室)



「中央病歴管理室(カルテ保管庫)」での風景

ボイス
Voice 臨床研修医

熊本中央病院研修医 松野 凌太

10月から4週間、くまもと心療病院で研修させていただきました。精神疾患は目に見えない分、患者さんの言葉や表情、日常生活の様子から多くを汲み取る必要があり、傾聴の姿勢が治療の第一歩であることを改めて実感しました。また、疾患ごとの治療方針だけでなく、患者さん一人ひとりに合わせた個別のアプローチが求められる点が特に印象的でした。さらに、多職種の医療チームと連携しながら患者さんを支えることの重要性も深く感じました。この研修を通じて、自分のコミュニケーション能力や患者理解の力が大きく成長したと感じています。来年からは精神科とは別の診療科に進む予定ですが、ここで学んだ姿勢やスキルを今後の診療に活かし、患者さんに寄り添う医療を提供できるよう努めていきたいと思います。 《くまもと心療病院研修期間：2024年10月7日～11月1日》



認知症疾患医療センター



令和6年12月13日(金) 18:30~20:30 地域拠点型認知症疾患医療センター事例検討会を宇土市保健センターで開催しました。日本老年精神医学会認知症専門医である今井 正城 先生から「認知症の基本について」、事例提供では「グループホームでの看取りを行ったケース～最期は家族と一緒に～」を認知症対応型生活介護グループホームめくもりの柴田 忍 管理者から発表していただきました。専門職への講義は、約70名の参加がありました。レカネマブ等の認知症疾患修飾薬の登場で、MCI(軽度認知障害: Mild Cognitive Impairment) と呼ばれる”認知症ではないけれど、以前に比べて認知機能が低下してきている状態”に注目が集まっています。MCIのタイプは4種類に分かれており、基本的な知識も少しずつ変化しているため、情報の確認となりました。看取りの事例は丁寧に振り返っておられ、本人、ご家族の意向を叶えるために、周囲のサポートがよく機能したのだろう、と思いました。認知症が進行しても日ごろの関わりで本人の意向をよく汲み取っている事例で、グループに分かれての事例検討でも、看取りの意向をいつから確認しておくか等、ディスカッションが活発に進んでいました。

お知らせ
コーナー

■ こころの健康フェスタ参加

12月1日(日) 精神障害者の理解推進を目指し県と熊本県精神保健福祉協会主催の『こころの健康フェスタ』が下通アーケードにて今年も開催され参加しました。当院の作業療法に参加した患者様の絵画や書道作品、またソシエ、ぎんなん、すみれ訪問看護ステーションの利用者様が作成した塗り絵や手芸作品を披露しました。



■ 宇城認知症地域連携懇話会学術講演会・認知症疾患医療センター事例検討会

日時/令和7年2月7日(金) 18:30~20:30

会場/ウィングまつばせ コミュニティアリーナ

特別講演「アルツハイマー病の早期診断と新しい治療」

講師/くまもと青明病院 宮川 雄介 先生

座長/当院 荒木 邦生 理事長

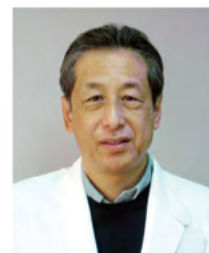
事例検討「家族が妄想の対象になっている利用者支援」

事例提供/小規模多機能型事業所 めくもり 管理者 吉田 友美 氏

専門職向けの講演会になります。ご希望の方は1月31日までにお申し込みを。申し込み先は、宇城認知症地域連携懇話会事務局(あおば病院)になります。



宮川 雄介 先生



荒木 邦生 理事長

編集後記

あけましておめでとうございます。1年が過ぎるのがあっという間に感じてしまいます。2025年はどんな年にしたいですか？私は新たな事にチャレンジする年にしたいと思います。皆様にとって今年も良い1年となりますよう願っております。 (東2階病棟 宗 拓郎)



関連施設

医療法人 再生会

- 地域拠点型認知症疾患医療センター ☎0964-22-1106
- すみれ訪問看護ステーション ☎0964-22-0402
- 認知症高齢者グループホーム「ぬくもり」 ☎0964-22-1118
- 小規模多機能型居宅介護「ぬくもり」 ☎0964-22-7277
- うきうき地域生活支援センター ☎0964-22-2510
- 自立訓練(生活訓練)事業所「ソレイユ」 ☎0964-22-5366
- 障がい者共同生活援助グループホーム「まつやま」 ☎0964-22-5501



外来診察

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	休 診
午後	○	○	○	○	○	休 診

診察	月～金曜日	午前の部	9:00～12:30
		午後の部	14:00～17:00

◆休診日：土曜日・日曜日・祝日

お盆休み(8月15日)・年末年始12月30日～1月3日

※ 診察券は、受診時に必ずお持ちください。(診察券は大切に保管してください)

※ 毎月最初の受診日には保険証を提示してください。

※ 診察はすべて予約が必要です。事前にご連絡ください。但し、急患はこの限りではありません。



交通のご案内

- JR鹿児島線・三角線 「宇土駅」下車
→バス(約20分) →タクシー(約10分)
- JR鹿児島線 「松橋駅」下車
→タクシー(約5分)
- 産交バス熊本方面から八代・松橋行
→「松山」下車 (徒歩1分)
- 産交バス松橋方面から熊本行
→「松山」下車 (徒歩1分)
- 松原交差点から八代方面へ車で約5分

